

平成 22 年度

特別展 「鏗木清方、日本画家をめざして 一鳥合会時代の作品を中心に」

明治 34 年、日本画家を志す年若の画家たちが、画力向上のために「鳥合会」を結成。清方などの水野年方門をはじめとして様々な流派の画家が集い、毎回共通のテーマで制作し、発表していた。

本展覧会では、この鳥合会に出品された《一葉女史の墓》、《深沙大王》などの他、当時の作《高野聖》や《不如帰》、さらに鳥合会を経て日本画家として大成した頃の作品を紹介した。

会期 平成 22 年 4 月 15 日(木)～平成 22 年 5 月 19 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,616 人(一日平均:116 人)



関連記事

「鏗木清方、日本画家をめざして」(3月11日 新美術新聞 2010年度上半期展覧会カレンダー)

「鏗木清方記念美術館 特別展「鏗木清方、日本画家をめざして」」(4月15日 広報かまくら)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館」(4月20日 神奈川新聞 花菜)

「ミュージアムナビ 鎌倉市鏗木清方記念美術館 鏗木清方、日本画家をめざして」(4月23日 神奈川新聞)

「美術館・文学館めぐり 鏗木清方記念美術館 日本画家をめざして」(5月1日 鎌倉朝日)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 特別展『鏗木清方、日本画家をめざして』」(5月1日 鎌倉萌)

「鏗木清方記念美術館 特別展「鏗木清方、日本画家をめざして」(5月1日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 鏗木清方、日本画家をめざして」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
春雨	昭和 30 年(1955)	絹本着色・軸	40.5×50.7	名都美術館蔵
西鶴五人女のおまん	明治 44 年(1911)	絹本着色・軸	111.5×41.5	同上
白雨	昭和 8 年(1933)	絹本着色・軸	129.6×42.3	同上
春の淡雪	昭和 13 年(1938)頃	絹本着色・軸	48.0×58.0	同上
初茸	昭和 37 年(1962)頃	絹本着色・軸	40.5×52.0	同上
たけくらべの美登利	昭和 15 年(1940)	絹本着色・額	58.0×72.8	京都国立近代美術館蔵
菊花節	昭和 17 年(1942)	絹本着色・軸	130.0×58.0	同上
砧	昭和 19 年(1944)頃	絹本着色・軸	49.3×57.6	同上
高野聖	明治 37 年(1904)	絹本着色・屏風(二曲一隻のうち)	127.7×84.9	豊川閣妙厳寺(豊川稲荷)蔵
不如帰	明治 38 年(1905)	絹本着色・屏風(六曲一隻のうち)	170.6×84.3	同上

【所蔵品】

「一葉女史の墓」「深沙大王」「小楠公弁の内侍を救う」「寒月」「寺子屋画帖」「教誨」「金色夜叉」「砂浜少女」「夏の女(夏の思い出)」「有卦自祝之絵」「春の立場茶屋(金沢春景)」「にごりえ(全 15 図)」「芍薬」「小説家と挿絵画家(下絵)」「曲亭馬琴(下絵)」

「泉鏡花著『三枚續』表紙装丁」「泉鏡花著『三枚續』袋装丁(校正摺)」「泉鏡花著『伊勢之巻』(『新小説』口絵)」「泉鏡花著『深沙大王』(『文藝俱樂部』挿絵校正摺)」「泉鏡花著『風流線』口絵」「泉鏡花著『風流線』表紙装丁(校正摺)」「泉鏡花著『式部小路』口絵」「泉鏡花著『色暦』(『新小説』)口絵」「尾崎紅葉著『金色夜叉絵巻』挿絵」「泉鏡花著『高野聖』(『今様絵詞の會』)下絵」「泉鏡花著『高野聖』(『現代名作集 別巻』)口絵原画)」

「白鳥(『文藝俱樂部』口絵)」「鸚鵡(『文藝俱樂部』口絵)」「光のどけき(清方畫譜の四)(『講談雑誌』口絵)」

「鏗木清方装丁 泉鏡花著『三枚續』」「鏗木清方装丁 泉鏡花著『風流線』」「鏗木清方装丁 泉鏡花著『鏡花全集』」「鏗木清方装丁 泉鏡花著『婦系圖』(『泉鏡花選集』)」「泉鏡花著『名作繪物語 日本橋』(『苦樂』)」「尾崎紅葉著『明治文學全集 18 尾崎紅葉集』」

特別展 「鏑木清方、弟子たちとの関わり ―郷土会展を中心に―

大正4年(1915)に、清方の門下生からなる「郷土会」が結成された。この名は、それぞれが巣立った後でもふる里を忘れまいとの思いで付けられ、昭和6年の第16回展まで開催された。伊東深水、寺島紫明、山川秀峰、川瀬巴水、柿内青葉など多くの画家たちを輩出した。

本展覧会では、清方が郷土会のために賛助出品した《暮雲低迷》《註文帖》《僧房春蘭(牡丹の寺)》などの作品を中心に展示した。



会期 平成22年5月22日(土)～平成22年6月27日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 3,155人(一日平均:101人)

関連事業

美術講演会「清方の門下による新版画 ―伊東深水、川瀬巴水、笠松紫浪と小早川清を中心―」

【講師】 渡邊章一郎氏(国際浮世絵学会常任理事、(株)渡邊木版美術画舗代表取締役)

【日時】 平成22年5月25日(火)13:30～15:30

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展『鏑木清方、弟子たちとの関わり』」(5月1日、6月1日 鎌倉萌)

「鏑木清方記念美術館 特別展「鏑木清方、弟子たちとの関わり」(5月1日、6月1日 かまくら四季のみどころ)

「今月のおすすめ展覧会 鏑木清方、弟子たちとの関わり」(5月20日 美じょん新報)

「肖像百選 歴史画編 鏑木清方 慶喜恭順」(5月24日 歴史読本)

「鏑木清方記念美術館 特別展「鏑木清方、弟子たちとの関わり―郷土会展を中心に―」(6月1日 広報かまくら)

「Friday かながわイベントガイド 特別展「鏑木清方、弟子たちとの関わり～郷土会展を中心に」」(6月4日 読売新聞)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方、弟子たちとの関わり―郷土会展を中心に―」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
紺屋高尾	明治45年(1912)頃	絹本着色・軸	33.5×23.5	福富太郎コレクション
コスモス	大正元年(1912)	絹本着色・軸	113.5×27.9	同上
水神の森	大正13年(1924)	絹本着色・軸(双幅)	129.4×27.0	同上
廓の宵	大正15年(1926)頃	絹本着色・軸(双幅)	118.0×27.0	同上
暮雲低迷	大正9年(1920)	絹本着色・屏風(六曲一双)	(各)139.0×290.0	横浜美術館蔵
伊東深水作「蚊帳」 『現代美人集第一輯』	昭和4年(1929)	木版	40.8×26.2	(財)日本浮世絵博物館 (鎌倉事務所)蔵
小早川清作「湯上り」	昭和8年(1933)	木版	39.7×25.8	同上
山川秀峰作「現在の東京駅」	昭和17年(1942)	木版	46.2×35.4	同上
川瀬巴水作「巴水人形画集」	昭和10年(1935)	木版(24点)	(各)22.7×19.4	同上
川瀬巴水作 「鎌倉妙本寺(海棠)」	昭和6年(1931)	木版	36.1×23.9	個人蔵

【所蔵品】

「僧房春蘭(牡丹の寺)」「註文帖(全13図)」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「金沢絵日記(第3、5、19図)」「舞妓」「襟おしろい」「あじさい」「ゆあみ」「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)(第2、24、25図)」「夏の柳井戸(スケッチ)」

『講談雑誌』口絵(「戀の湊(清方畫譜の八)」「盆提灯(清方畫譜の七)」「九月の海(清方畫譜の九)」)

「菊池幽芳著『百合子』中編・後編 口絵」「菊池幽芳著『百合子』前編・後編 挿絵」「菊池幽芳、鏑木清方合作『百合子画集』下 挿絵」「鏑木清方繪入本 御濠端」(「柳の井」「大手町附近」)

水野年方作 口絵「村上浪六著『最後の黒田建次』後編」

水野年方作 口絵「村上浪六著『当世五人男のうち 倉持幸蔵』前編・続編」

収蔵品展「鏑木清方の生きた時代」

鏑木清方は、明治・大正・昭和という三時代を駆け抜け、日清・日露戦争及び二回の大戦など多くの戦争を経験した。これらの戦争は、絵のテーマに制限を生じさせたり、二度の疎開生活を余儀なくさせるなど、清方の画業に影響を与えた。

本展覧会では、第一次世界大戦時の女性たちの姿を双六にした《軍国をんな雙六》や、太平洋戦争時に疎開先の御殿場で描いた《御殿場からの富士 スケッチ》、朝鮮の名妓を描いた《崔承喜 二》などを中心に、清方の戦時の画業を紹介した。

会期 平成 22 年 7 月 3 日(土)～平成 22 年 8 月 22 日(日)

(開館日数:44 日)

総入館者数 2,883 人(一日平均:65 人)



関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」

【テーマ】ミニ屏風に日本画材を使って絵を描こう

【開催日時】平成 22 年 7 月 29 日(木)・30 日(金)・8 月 6 日(金)9:30～10:30

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成 22 年 7 月 3 日(土)～8 月 22 日(日)

関連記事

「肖像百選 歴史画編 鏑木清方 慶喜恭順」(5 月 24 日 歴史読本)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏑木清方の生きた時代」」(7 月 1 日 広報かまくら)

「はみ出し情報 鎌倉市鏑木清方記念美術館 鏑木清方の生きた時代」(7 月 1 日 江ノ電沿線新聞)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 《収蔵品展》鏑木清方の生きた時代」(7 月 1 日 鎌倉萌)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏑木清方の生きた時代」」(7 月 1 日、8 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「街暦 収蔵品展「鏑木清方の生きた時代」」(7 月 ジェイシーエヌ・プラス)

「夏の展覧会めぐり 鏑木清方記念美術館 鏑木清方の生きた時代」(8 月 1 日 鎌倉朝日)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 鏑木清方の生きた時代」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

出品作品

「砦」「金色夜叉」「曲亭馬琴」「山百合」「虫の音」「崔承喜 一」「崔承喜 二」「柳の下に涼む娘」「清流」「道成寺」

「深沙大王」「梅蘭芳 天女散華」「干物」「ゆかた」「鰯」「砂浜少女」

下絵 「河添の家」「蕪」「稚児桜」

スケッチ 「御殿場からの富士」「茅ヶ崎の松林」「崔承喜」(8 点)「銃」「軍艦」

『文藝俱樂部』 「首途(下絵、校正摺)」「戦艦三笠の奮闘(校正摺)」(2 点)「いのち毛(校正摺)」

「未亡人(校正摺)」「伊達政宗阿武隈川の勇戦(校正摺)」「鬼上官清正(校正摺)」

「蔚山沖大海戦榎原兵曹の奮戦(校正摺)」(2 点)「吉野落(校正摺)」「勇婦巴御前(校正摺)」

「豪膽の兵士(校正摺)」「赤十字(校正摺)」「その一声(校正摺)」「墓上の涙(校正摺)」

『少年界』表紙絵」(2 点)

「ボート、レース(口絵)」「遠足(口絵)」「妙義山(口絵)」「とんぼつり(口絵)」「彩色(口絵)」

「軍国をんな雙六(『文藝俱樂部』附録)」

収蔵品展「鏑木清方と官展」

【第一期】

文部省美術展覧会(文展)にはじまる政府が主催した展覧会を「官展」と呼び、明治 40 年に第一回展が開催された。清方は入選と受賞を重ね、大正 4 年に《霽れゆく村雨》(第九回文展)を出品し最高賞を受賞して、日本画家としての地歩を固めていった。大正 8 年からは審査員を度々務め、組織の運営にも携わった。

本展覧会では、出世作《霽れゆく村雨》の下絵をはじめ、代表作のひとつ《朝涼》(第 6 回帝展)など官展に関わる作品を中心に展示した。

会期 平成 22 年 8 月 26 日(木)～平成 22 年 9 月 26 日(日)

(開館日数:28 日)

総入館者数 2,570 人(一日平均:91 人)



関連記事

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏑木清方と官展(第 1 期)」

(9 月 1 日 広報かまくら)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏑木清方と官展」【第一期】

(8 月 1 日、9 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 《収蔵品展》鏑木清方と官展 第一期」(9 月 1 日 鎌倉萌)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品展 鏑木清方と官展 第一期」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

出品作品

「水汲」「朝涼」「風景」(2 点)「カルメン」「女役者糸八」「ふたつあちさみ」「清子四歳像」「龍膽」「喜寿」

「夏の生活(第 6、9 図)」「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)(第 1、24 図)」

「游心庵漫筆(第 16、17 図)」「金沢絵日記(第 18、19 図)」「絵日記(第 1、3 図)」

下絵 「築地明石町」「霽れゆく村雨」「霽れゆく村雨(小下絵)」「朝夕安居 朝」「朝夕安居 昼」「女役者糸八」(2 点)
「青き星」「濱町河岸の秋」

スケッチ 「蓮」(2 点)「朝涼」「水汲」「築地明石町」「築地明石町の船・詞」

『画集東京と大阪』より『東京 築地川』(「明石町」「鉄砲洲」)

『清方美人畫譜』 「幕間」「野崎村」「春のいでゆ」「春雨の寮」「五月雨」「濱町河岸の秋」「青き星」「湖のほとり」
「午後の海」

「霽れゆく村雨(絵葉書)」(参考図版)

「築地明石町(切手)」「一葉(切手)」

「鈴木春信「俄雨」(『芸術新潮』)」(参考図版)

収蔵品展「鏑木清方と官展」

【第二期】

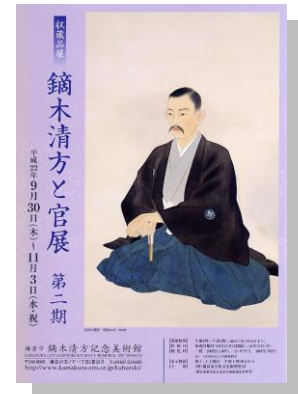
明治40年(1907)に始まった文展(文部省美術展覧会)は、国が主催する美術展覧会として社会の注目を集めていた。

本展覧会では、能の席で見かけた徳川慶喜の姿にかつての「恭順」の佇まいを感じたことを思い起こして描かれた《慶喜恭順》や、師・水野年方を官展最後の出品作として描いた《先師の面影》など、大正・昭和における官展への出品作品を中心に清方の画業を振り返る展示を行った。

会期 平成22年9月30日(木)～平成22年11月3日(水・祝)

(開館日数:30日)

総入館者数 2,748人(一日平均:91人)



関連記事

「展覧会 鎌倉市鏑木清方記念美術館 鏑木清方と官展」

(9月25日 博物館研究)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 《収蔵品展》鏑木清方と官展 第二期」

(10月1日 鎌倉萌)

「秋の美術館・文学館めぐり 鏑木清方記念美術館 鏑木清方と官展(2期)」

(10月1日 鎌倉朝日)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏑木清方と官展」【第二期】」

(11月1日 かまくら四季のみどころ)

出品作品

「先師の面影」「ためさるゝ日(右幅)」「慶喜恭順」「朝夕安居 朝・昼・夕」「子供二人」

「笠の曲(娘道成寺)」「雑司ヶ谷会式」「雨華庵風流」「大蘇芳年」「菊慈童」「有卦自祝之絵」

「紅雨荘(右隻・下絵)」「三遊亭圓朝像(下絵)」「曲亭馬琴(下絵)」

「黒髪(小下絵)」「初雁の御歌(小下絵)」

スケッチ 「紅雨荘」(5点)「踏絵」「三遊亭圓朝像」「慶喜恭順」「初雁の御歌」「道成寺」「曲亭馬琴」(2点)

「伎女像」(3点)「葡萄」「栗」「水禽」(2点)

『講談雑誌』口絵(「秋のおとづれ」「旅愁(清方畫譜の十)」「九月の海(清方畫譜の九)」)

『文藝俱樂部』口絵(「夜長」「コスモス」「八幡鐘」「小春」)

「山田美妙著『人鬼』口絵」「菊池幽芳著『秘中の秘 宝庫探検』前編、後編口絵」

「江見水陰著『海底の噴火』後編口絵」「松居松葉著『無名城 朧朦妖奇』後編口絵」

「菊池幽芳著『賣花娘』口絵」

特別展 七絃会開催八十年記念展 主情派、清方の美

「七絃会」は、昭和5年(1930)に三越美術部が主催した展覧会で、昭和18年(1943)まで13回にわたって続いた。鏑木清方をはじめ、安田鞞彦、小林古径、前田青邨、菊池契月、土田麦僊、平福百穂の7人が参加し、官展を揺るがすとも言われる会に成長した。本展覧会では、清方が七絃会に出品した《桜もみぢ》(第3回展)、《お夏清十郎物語》(第10回展)など、七絃会と同時期に制作した作品を中心に展示した。



会期 平成22年11月6日(土)～平成22年12月12日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 3,182人(一日平均:102人)

関連事業

美術講演会「清方と七絃会の画家たち」

【講師】草薙奈津子氏(平塚市美術館長)

【日時】平成22年11月9日(火)13:30～15:30

関連記事

「七絃会開催八十年記念展」(8月1日 新美術新聞 2010年度下半期展覧会カレンダー)

「鏑木清方記念美術館 特別展「七絃会開催80年記念展—主情派、清方の美」(11月1日 広報かまくら)

「鏑木清方記念美術館 特別展「七絃会開催八十年記念展」(11月1日 かまくら四季のみどころ)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展 七絃会開催八十年記念展—主情派、清方の美—」(11月1日 鎌倉萌)

「Friday かながわイベントガイド 特別展「七絃会開催八十年記念展 主情派、清方の美」(11月5日 読売新聞)

「この秋からいかが 小町通り・八幡宮エリアのミュージアムめぐり」(11月10日 鎌倉生活)

「主情派、清方の美」(12月1日 新美術新聞)

「美術館・文学館めぐり 鏑木清方記念美術館 七絃会記念展」(12月1日 鎌倉朝日)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
明鏡	昭和6年(1931)	絹本着色・軸	125.5×36.0	茨城県近代美術館蔵
花ざかり	昭和13年(1938)	絹本着色・軸	143.3×50.2	同上
汐路のゆきかひ	昭和34年(1959)	紙本着色・額	55.5×60.6	同上
一葉(下絵)	昭和15年(1940)	紙本墨画・軸	149.0×89.0	神奈川県立近代美術館蔵
お夏清十郎物語	昭和14年(1939)	絹本着色・額(6面)	(各)38.0×49.0	同上
婦人図(スケッチ)	制作年不詳	紙本鉛筆・軸	32.6×33.2	同上

【所蔵品】

「大和路の或る家」「桜もみぢ」「狐狗狸」「歌舞伎の始(下絵)」「初冬の花(下絵)」「雪旦(下絵)」「菊花節(下絵)」「たけくらべの美登利(下絵)」「お夏清十郎物語 第4、6 図(下絵)」「瀧野川観楓(下絵)」「伽羅(下絵)」「抱一弄弦像(下絵)」「汐路のゆきかひ(下絵)」

『朝顔日記』「目録草稿」「構想略図」「宇治の蛍(下絵)」「朝顔の歌(下絵)」「明石船別れ(下絵)」「浜松(下絵)」「島田の宿(下絵)」「目なし鳥(下絵)」「めぐりあひ(下絵)」「露の干ぬ間(下絵)」「川とめ(下絵)」「大井川(下絵)」「ひれふる山(下絵)」「かへり咲(下絵)」「道行(下絵)」

スケッチ 「桜もみぢ」「雪ノ下画室よりもみぢ」「青坡が庭の柿」

『講談雑誌』口絵(「炬燵」「朝寒」)『婦人世界』口絵(「星多き夜」「さくら色」「春霞巾を着けた女」「散るいてふ」)「龍巻(『婦人世界』挿絵)」(2点)

「美人画を描くときの苦心」(『婦人世界』)

収蔵品展 「明治への思慕 百貨店開催の押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」一」

昭和10年(1935)6月、日本橋・三越にて鏗木清方第二回個展が開催された。清方は、明治の後半頃から挿絵画家として活躍し、口絵や挿絵に市井の人々の生活情景を描いていたが、その後日本画家となり、明治30年代の風俗に思いを馳せ、婦女たちの中流生活を描いた《明治風俗十二ヶ月》を出品した。

本展覧会では、それをもとに挿絵師・永井周山が制作した押絵羽子板のほか、新春の雑踏の賑わいを描き出した《都大路》(『文藝界』口絵)や《松のうち》など、初春の趣き豊かな作品を紹介した。

会期 平成22年12月18日(土)～平成23年2月6日(日)

(開館日数:39日)

総入館者数 3,053人(一日平均:78人)



関連記事

- 「鎌倉市鏗木清方記念美術館 《収蔵品展》明治への思慕」(12月1日 鎌倉萌)
- 「シティライフ 鏗木清方記念美術館 明治への思慕」(12月21日、1月4日 読売新聞夕刊)
- 「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 明治への思慕」(1月1日 広報かまくら)
- 「明治の風趣に思いを馳せる 収蔵品展「明治への思慕」」(1月1日 湘南よみうり)
- 「Friday かながわイベントガイド 収蔵品展「明治への思慕」」(1月7日 読売新聞)
- 「しろがね美術館情報 鎌倉市鏗木清方記念美術館」(1月 しろがね)
- 「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 明治への思慕」(2月1日 かまくら四季のみどころ)

出品作品

- 「二人静」「舞妓」「雪空」「早見の藤太」「白梅」「松のうち」「白梅」「襟おしろい」「風景」「道行浮瑠璃」「年増美人」「春や昔」
- 「宝珠」「初夢(清方畫譜の一)(『講談雑誌』)」「嬌音(清方畫譜の二)(『講談雑誌』)」「薄雪(下絵)」「明治の女(下絵)」(3点)「野辺の女学生(下絵)」
- スケッチ 「舞妓」「春の七草」「水仙」「露の臺」「沈丁花」
- 口絵 「都大路(『文藝界』)」「餅むしろ(『文藝俱樂部』)」「春を待つ(『文藝俱樂部』)」「元日の朝(『婦人世界』)」「紅梅(『女學世界』)」「初東風(『大正婦人』)」「クリスマス(『少女界』)」「暗香」「初雪」「年始まわり」「楽しき贈り物」
- 「瑞香(百花百姿)(『新小説』口絵)」「虎の門 見立十二姿の内(『新小説』口絵)」
- 「渡邊霞亭著『渦巻』続編 口絵」「婦人美人畫(一)松の内(朝日カレンダー)」
- 「きさらぎ(『少女界』表紙絵)」「看梅(『少女界』表紙絵)」
- 「鱧崎英朋・鏗木清方合作新年大附録「松の内」(『文藝俱樂部』附録)」
- ふくさ(「松皮菱に梅」「梅」)
- 風呂敷(「凧と梅」「扇面に松と梅」「扇面に松・藤と梅」「張子の虎とキンカン」)
- 押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」

収蔵品展「日本画家と挿絵の制作」

【第一期】「泉鏡花とのかかわり」

清方は、明治35年に発行された『三枚續』で、あこがれていた泉鏡花の小説に初めて口絵と装丁を手掛けた。鏡花の口絵は、様々な画家が描いているが、中でも清方の挿絵は特に人気を博し、日本画家への道を後押しした。清方の随筆や鏡花の文章からは、互いへの敬愛の念が読み取れる。清方は、鏡花が亡くなった直後に『鏡花全集』の編纂委員を務め、鏡花の好きだった兎や紫陽花を用いた装丁からは、故人に対する哀悼の気持ちを感じられる。

本展覧会では、鏡花との交流を口絵や挿絵、作品、随筆を通して紹介した。

会期 平成23年2月11日(金・祝)～平成23年3月21日(月・祝)

(開館日数:34日)

総入館者数 2,007人(一日平均:59人)



関連記事

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「日本画家と挿絵の制作」【第一期】」(2月1日 かまくら四季のみどころ)

「はみ出し情報 収蔵品展 日本画家と挿絵の制作 第一期 泉鏡花とのかかわり」(2月1日 江ノ電沿線新聞)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 収蔵品展 日本画家と挿絵の制作」(2月1日 鎌倉萌)

「気になる情報ばれっと 県外美術館博物館 三枚續」(2月11日 上毛新聞)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「日本画家と挿絵の制作【第一期】泉鏡花とのかかわり」(2月15日 広報かまくら)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 日本画家と挿絵の制作 泉鏡花とのかかわり」(2月25日 博物館研究)

「収蔵品展 日本画家と挿絵の制作 第1期 泉鏡花とのかかわり」(3月1日 新美術新聞)

「美術館・文学館めぐり 鎌木清方記念美術館 挿絵の制作・泉鏡花」(3月1日 鎌倉朝日)

「鎌木清方記念美術館 『泉鏡花とのかかわり 日本画家と挿絵の制作』—収蔵品展—」(3月4日 ぱど)

出品作品

「深沙大王」「栗をむく娘」「寒月」「暮れゆく沼」「孤児院」「築地明石町の船・詞」「春や昔」「浅みどり」「ふたつあちさみ」

「ほづき」「有卦自祝之絵」「ゆあみ」「註文帖」

「大川端(下絵)」「築地明石町(下絵)」「小説家と挿絵画家(下絵)」「高野聖(下絵) (『今様絵詞の会』)」

口絵 「泉鏡花著『式部小路』口絵、差上げ」「泉鏡花著『瓔珞品』(『新小説』)」「泉鏡花著『起誓文』(『新小説』)」

「泉鏡花著『無憂樹』」「泉鏡花著『神鑿』」「泉鏡花著『戀女房』」「泉鏡花著『薄紅梅』口絵、下絵」

「泉鏡花著『風流線』口絵、下絵、校正摺、差上げ」「胡蝶之曲『新小説』口絵、下絵」

「色暦『新小説』口絵、校合摺」

「泉鏡花著『三枚續』口絵、口絵下絵、表紙」「高野聖『苦樂』表紙、表紙下絵」「紅梅屋敷『苦樂』表紙、表紙下絵」

「深沙大王『文藝倶楽部』校正摺(2点)」「泉鏡花著『薄紅梅』『東京日日新聞』挿絵下絵」

「泉鏡花著『鏡花全集』表紙、表紙裏装丁、扉装丁」

「鎌木清方著『銀砂子』」「鎌木清方著『築地川』(限定版)」

「鎌木清方著『築地川』(普及版)」「鎌木清方著『築地川』序 泉鏡花」「鎌木清方著『思ひ出今昔』『圖書』」

収蔵品展「日本画家と挿絵の制作」

【第二期】「樋口一葉への憧憬」

清方は、明治24年に日本画家・水野年方へ入門し、一葉の小説に挿絵を描くことを目標に、挿絵画家としての勉強に励んでいた。しかし、間もなく一葉は夭折し、その機会は失われてしまう。ある日、樋口家の墓に詣でると、一葉の墓標に寄り添う『たけくらべ』の主人公・美登利の姿が浮かんだ。こうして制作された「一葉女史の墓」は、挿絵から日本画の世界へ転身してゆくきっかけとなった。

本展覧会では、「一葉女史の墓」「にぎりえ」など一葉作品を題材にした作品を中心に紹介した。

会期 平成23年3月25日(金)～平成23年4月24日(日)

(開館日数:27日)

総入館者数 2,031人(一日平均:75人)



関連事業

「春休み子ども参加プログラム」

【テーマ】日本画材を使って三連作の「しおり」を作ろう！

【開催日時】平成23年4月2日(土)、3日(日)9:30～11:00

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】平成23年3月25日(金)～4月3日(日)

関連記事

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「日本画家と挿絵の制作 第二期 樋口一葉への憧憬」(4月1日 広報かまくら)

「鎌倉市鑑木清方記念美術館 収蔵品展 日本画家と挿絵の制作【第二期】樋口一葉への憧憬」(4月1日 鎌倉萌)

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「日本画家と挿絵の制作」【第二期】—樋口一葉への憧憬—

(4月1日 かまくら四季のみどころ)

「シティライフ 鑑木清方記念美術館 日本画家と挿絵の制作 樋口一葉への憧憬」(4月19日 読売新聞夕刊)

出品作品

「一葉女史の墓」「小楠公弁の内侍を救う」「新大橋之景」「嫁ぐ人」「僧房春蘭」「早春」「教誨」

「牡丹 一」「牡丹 二」「鍾馗」「夏の思い出」

「寺子屋画帖(5～6 図)」「にぎりえ(全15図)」「たけくらべ」(『現代名作集』口絵原画)

「新富町(下絵)」「たけくらべの美登利(下絵)」「たけくらべ(つり忍)(下絵)」(2点)「たけくらべ(霜の朝)(下絵)」

「樋口家の墓(スケッチ)」「桜(スケッチ)」(2点)「木蓮(スケッチ)」「蕨(スケッチ)」

「白鳥(『文藝倶楽部』口絵)」「鸚鵡(『文藝倶楽部』口絵)」

「『にぎりえ・たけくらべ』表紙絵」「たけくらべの美登利(『苦楽』)表紙絵」

「たけくらべ『研究画林 第四巻』『研究画林 第六巻』(『開館十周年記念図録』)」「一葉女史の墓(『新小説』)挿画」

「にぎりえ(画譜)」

「たけくらべ『樋口一葉集 日本近代文学大系 8』(参考図版)」

切手「一葉」